



道
守

みちもり

MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.50 春号

50号記念号



道守50号記念対談(上)

「道守通信」の果たしてきた役割

道守活動、今後の課題

塚原健一、桑野和泉

みちづくし in のべおか 2025 実施報告

テーマは～コエる～

500名の道守さんが宮崎・延岡に集結!!

道路部の施策

新しい道路協力団体制度～脱炭素化への取り組み～

「道の駅」防災拠点機能強化の取り組み

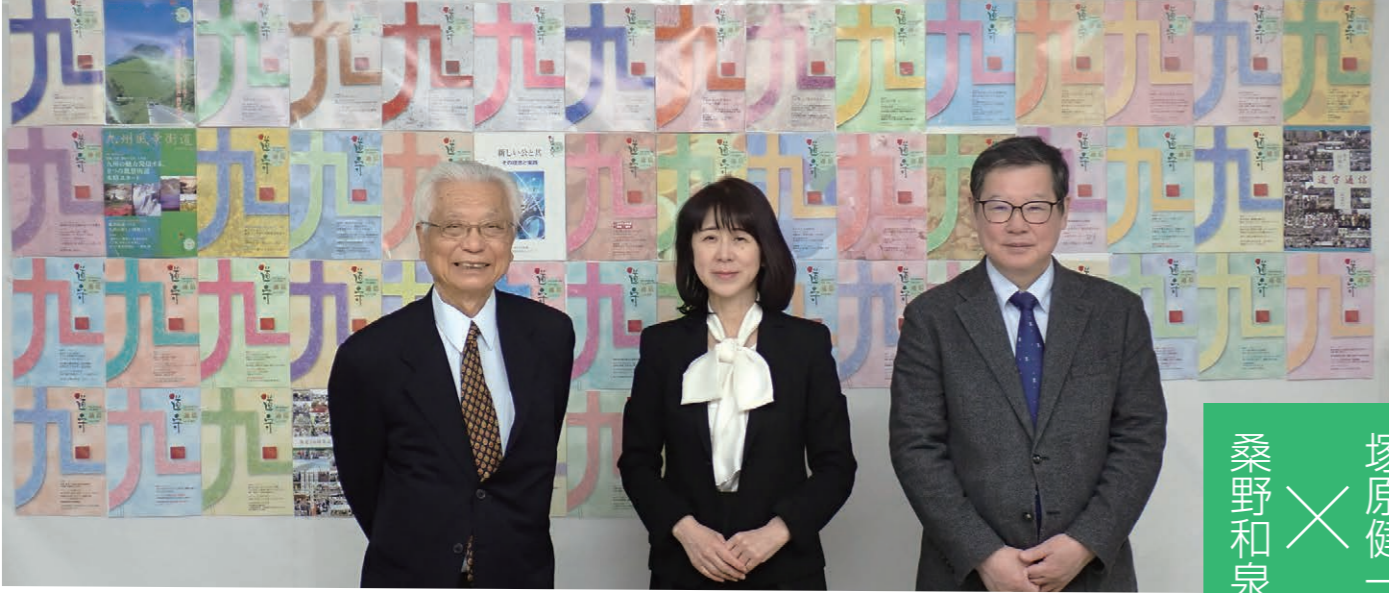
道守九州会議 設立趣旨

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を選び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキヤッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄りは、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなど、道は整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組む人々が増えている。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。さあ、新しい道に一步踏み出そう。



塚原健一
桑野和泉

道守通信50号

記念対談

(上)



都井岬の野生馬(宮崎県串間市都井岬)

CONTENTS

- 01 道守50号記念対談
「道守通信」の果たしてきた役割
道守活動、今後の課題
塚原健一、桑野和泉
- 03 みちづくし in のべおか 2025実施報告
テーマは～コエる～
500名の道守さんが宮崎・延岡に集結!!
- 06 みちづくしに参加して
- 09 みちづくし in かみみね 2026 開催決定!
- 10 わたしの好きな道
ルート・グランブールの愛称に込めた思い
伊藤俊徳
- 11 私たちの道守活動
- 14 海外花事情
サスティナブルな宿根草植栽が
都市の風景を変える
- 15 道路部の施策
新しい道路協力団体制度～脱炭素化への取り組み～
「道の駅」防災拠点機能強化の取り組み
- 17 九州風景街道
令和7年度の活動について
- 19 道守人物伝
- 20 道守たちのトピックス・編集後記

表紙画：久富 正美

1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

令和8年5月、九州で活動する道守さん達の活動を伝える「道守通信」は、創刊から今回発行で50号を迎えた。それまで個々の奉仕活動として、九州各地でボランティア活動として進められてきた道路清掃や花壇づくりなどの道路愛護活動をまとめて、「道守九州会議」の活動としてスタート(平成16年2月)したのに合わせ、道守活動にいそしむ皆さんの「活動通信」として、この道守通信は発足した。道守九州会議の設立趣旨として道守通信創刊号はこう述べている。「車優先社会は人々の心から、道を遠ざけてしまった。自宅前の道路のごみや雑草にも知らん顔。それどころか空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。そんな現状に心を痛め「道はみんなの財産」という意識と行動、行政と住民が手を携え「協働」で道を守る」と決意を述べている。その決意は今も変わらない。その道守さん達の決意と活動を励まし、共通の「情報広場」として支えてきたのが「道守通信」だった。

創刊50号を発行するにあたって、道守九州会議代表世話人の塚原健一さんと副代表・桑野和泉さんに、創刊から50号を迎えた「道守通信」の果たしてきた役割、道守九州会議の今後の課題などを話し合ってもらった。
(司会は玉川孝道)

今回、道守通信50号発刊することになりました。まず50号まで続いてきたということ、その役割についてお話ししていきたいと

思います。

桑野 道守の活動もそうですが、道に関わることって、どうしても時間軸がすごく長いと思います。過去・現在・未来と考えたときに、この通信があることで、当時のこともわかりますし、同時に、この先目指していることもわかるっていいことが、非常に大きかったんじゃないかと思っています。当時思ってたことが、5年後、10年後にできてたり、他のエリアでやってることを自分のところに取り入れたりとか、この道守通信が、皆さんの活動の歴史になり、未来に繋がっていく役割を担ってるっていいことを実感しています。

塚原 僕が道守に入ったのが、12号か13号ぐらいのところからですが、15号ぐらいから雰囲気が変わってきたのが、12号か13号通信全体で10ページのうちの5ページぐらいが地域の活動紹介なのですが、初めのころは皆さん服装も装備もばらばらで、いかにもご近所さんが集まってきて活動してる感じだったのが、15号ぐらいからなんかみんなユニフォームだとか統一感が出てきましたね。今ではサポート体制もできて、しっかりと立上げた組織だと思っていて、しかも、情報共有することが求められていた。年に2回5ページぐらいのいろんな活動がわかり、さらに年に1回「みちづくし」で情報交換するっていうのがあったから今があるんじゃないかなって思っています。ぜひ、全部ホームページですぐ見られるようになってるので新しい人や若い人にも見てほしいなと思います。

道守活動は花壇作りや清掃活動を

100mぐらいの小さな規模の団体を取り組んでいて横の繋がりがというのがなかなかできないなか、この道守通信が、もつと世界を広げるお手伝いをしたという気がします。この道守通信そのものは情報発信ですが、道守活動に、この通信がどういう役割を果たしてきたか、感想をお聞かせください。

塚原 一番は情報共有で、このサイズの冊子の5ページって相当な情報量があって、かつ、道を通じて地域を良くしようっていう中で、いろんなチャンネル使っちゃってるのを、知ることによって、参考にもなるし、自分たちも見本になるような、いい活動をしたっていうモチベーションにもなる。そういう意味で、モチベーションと情報力を高めてきて、しかもそれが20年、50号続いてるっていうのは、奇跡的じゃないのかなと思います。だから1号5ページで50号、計250ページだと本1冊になる。それぐらいの情報の蓄積を、みんなで共有してきたっていうのは、すごいことだなと思います。

桑野 自分の家の周りのゴミを拾ったり、お花を植える方たちが、この道守活動を通して、外の人を知ることによって、一体感が生まれて、一歩一歩、確実に広がってきたと思います。道守通信でお互いが、すぐに隣の人に聞けるような関係性を作れたこと。距離が近いんですよ。道守通信はかけ離れたものではなくて、わからないことをすぐに聞いていけるような関係性も生まれてきたし、顔が見えるので、通信に載ってるから、この人に聞いてみようとか。この距離感って私すごく良くて、道守通信ならではのと思っています。

なるほど。そういうことですね。小さい知恵が、ずつと交換されて共有できたことが一番大きかったし、道守活動そのものに大きな貢献をしたでしょう。
桑野 そうですね。道守の中で色々と情報交換ができ、持続できたことがすごく大事で、みんなが強くなれるし、みんなが道守って



2025年
10月23・24日開催

宮崎・延岡に集結!!

みちづくし in のべおか 2025 実施報告

テーマは「コエる」

500名の道守さんが

宮崎・延岡に集結!!

ということを通して緩やかな活動ができています。



道守九州会議代表世話人 塚原健一氏

があり、役所とも連携が取れているので、世の中の流れがそうなるにつれて、企業にとっていいタイミングであり、いい取り組みに協力するようになっていると思います。この道守通信を見て、道守がこういうふうに関わって、こういう位置づけなのかと、ちょっと指南書みたいな感じの役割もあったと思います。

私の好きな道というページは僕が一番愛読している。あの文章は本当に上手い。この道が本当に好きなんだという事を書こうとする人たちの心が非常に表れている。道路行政の人たちは、この原稿を見てきつと良かったと思うし、自分がした仕事がいかに愛されているかってわかると思うんですね。

「私の好きな道」に私自身はやまなみハイウェイを書かせていただきましたが、ずっと変わらない思いがあります。写真と文章でちょうど1ページいただくってありがたいですよ。九州地図の中に「わたしの好きな道」で出たところを地図上に落とすとすこくまた面白いなと思っています。

次に、みちづくし大会についての話題に移りたいと思います。このみちづくしの大会が、道守さんたちにとってどういう意味を持つのかなというところから、話をしたいと思います。単なるお祭りではなく、いい大会にだんだんなってきたというふうに思っています。

私は、みんなで集まって情報共有するというあの交流集会是絶対必要だと思えます。400名ぐらいが集まってしゃべりするみちづくし大会は一人ひとりが主役なんですよ。去年の延岡もそうですが、何か実験の場でもあるようにいつも進化しているじゃないですか。それは信頼関係もあるんじゃないでしょうか。何かチャレンジするのがこのみちづくし大会ですね。2巡して3巡目からまたどんどん面白くなりました。竹田大会では、宿泊所が分散しました。450名の懇親会が絶対という流れの中で、宿泊が分散するって

いったときに、今まで竹田市ではそういう大会をしたことがないので、行政含めてみんながどうやればいいのかって考え、出来るための努力をしました。私は、地域を育てるという意味でもこのみちづくし大会は重要だと思います。成功事例ができたので、今では竹田市が当たり前のようにやっていると。だからみちづくし大会はどんどん進化して、より時代の先頭を走っているということを感じました。それがまた延岡に行くこと、あの「ほこみち」って面白くて、すごい話題になって、延岡の人たちが、あれはなんだったんだらうって話されておいて、地域に残してきたことも大きいと思います。地域が持つ可能性を、道を通して九州中の人たちが何かしらいい知恵まで持ってくるから、ああいうことができるんだと思うし、素晴らしいから。だから多分伝説が生まれたのじゃないですか。

確かに、その中で言うと今度、上峰町の道の駅であれだけの集客イベントをやって成功すると、この道の駅でも、5000人程度のイベントはうちでも出来るんじゃないか。それでまた一つの可能性が広がると思うんですね。だから是非、上峰はそういう成功事例として楽しみたいですね。

僕は延岡で感じたのは、商店街を舞台にして、神輿を出したでしょ。道路ってというのは、人が歩いたり車が走るだけじゃなくて、お祭りの広場であったり、みんながそれぞれ楽しむ広場であったりする。道路空間を非常によく考えたみちづくし大会だったと思います。

こういうときに官民を含めて、道に関わっている人たちの大会だからできるもので、すごいと思うし、他ではできないと思います。道守さん含めての普段の信頼関係があるから道路に関わることに對してのチャレンジをさせてくれると思います。

そうですよ。今度の上峰の道の駅だつて、道路管理施設だからお祭りに使っちゃ

駄目って言われたらできないし、逆にこういう使い方ができるっていうのが広がって可能性がわかれば、うちでもできるとなりますよ。

やっぱり道守さんがやっているみちづくしだから、道路を使ったこれからの地域交流のあり方も含めての最先端ができるのが、みちづくし大会だと思います。学ぶべきものがあって、毎回わくわくするので、交流会は絶対必要ですね。

確かに、延岡も竹田も本当によくできて。県庁所在地から舞台を、第2県都。それからもっと小さなところで開催し始めたこととはすごい。本当によかったと思います。

竹田市の人口は3万人、今度の佐賀の上峰町は1万人です。

竹田でも上峰町も道路が生活空間になっていると思います。そういう意味ではみちづくしを地方都市に持って行くのは非常に大変だけど、地方都市でなきゃ感じられない道の近さや重要性を実感することが大事ですね。



道守九州会議副代表世話人 桑野和泉氏

次号へ続く 乞うご期待

令和7年10月23日、24日の2日間にわたり宮崎県延岡市を中心に開催された「みちづくし in のべおか 2025」は、九州各県から500名を超える道守さんや、関係者が集い、官民あげての地元の協力のもと盛大に開催されました。

「空も海も山も川も：道でつながり、すべてをコエる」というキャッチフレーズですが、地域や世代、性別や文化など分断されるのではなく、壁を超えてお互いに協力し合って、公益的な活動を広め、宮崎で美味しいものを食べて「肥えて」帰って来た「こう...」という、実行委員長の親父ギャグですが、地域を超えて協力し合う事例が九州各県であるのではないかと、ということで、事例発表のスピーチを選出させていただきました。

お隣の県では、こんなことやっているのか？ 自分たちでも、ちょっと工夫すればできるんじゃないかというヒントになればと、テーマを設定いたしました。スタッフを含め500名以上の道守関係者が一堂に延岡の地に集結し、新たな出会いと学びを得る2日間となりました。

10月23日(木)

現地学習会

これまでの「みちづくし」は、初日の午後から交流会↓交流集会、2日目に現地学習会を行うという流れが通常のスケジュールでしたが、2日目は殆ど帰ってしまう



延岡城・内藤記念博物館にて延岡の歴史・文化を視察

A コース 延岡・歴史文化とクルージング

参加者が多いということもあり、初日に現地学習会を組みました。参加者も180名を超え、延岡市、高千穂町、日向市と3つのコースに分かれ、地元ならではの食も含めた体験ツアーを実施しました。

延岡市には、自然の絶景、歴史ある史跡、グルメなど、さまざまな魅力的な観光スポットがあります。今回は、リアス式海岸を巡るクルージングを予定していましたが、天候不良のためコースを変更して実施しました。

B コース 高千穂・神話と伝説のまち



高千穂神楽の舞を堪能した皆さん

宮崎県西臼杵郡にある高千穂町は、日本神話の舞台として知られる神秘的な町です。壮大な峡谷や神社など、豊かな自然と歴史的な名所を巡り高千穂神楽を堪能しました。



「願いが叶うクルスの海」を背景に記念撮影

C コース 日向・天領細島の旧街道と日向

宮崎県日向市には、美しい海岸線の絶景、歴史ある町並み、サーフィンの聖地として知られるビーチなど、多彩な観光スポット巡り、国指定名勝の妙国寺では写経体験にも挑戦しました。

交流集会

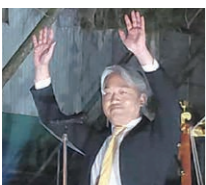
今回、延岡で交流集会を開催するにあたって、大きな課題となったのが会場探しでした。300人以上を収容する会場が見つからず、途方にくれていたところ、山下新天街商店街振興組合に協力を依頼して快諾いただいたことで計画が動き出しました。延岡観光協会に実行委員会として料理と会場設営を担当していただけることとなり、今山八幡宮の参道をメインステージに、非日常な空間を舞台とした交流集会が実現しました。



根岸道守みやざき会議 代表世話人挨拶



三浦延岡市長 挨拶



福井九州地方整備局・道路部長万歳三唱

料理も地産地消で、地元で獲れた素材を中心に手配。日本風景街道である「蒲江・北浦大漁海道」のつながりから佐伯の寿司トラックを招聘、地元のすし職人によるにぎりたての寿司を提供し、日向市からは「橘ひよっこ」踊り保存会による「ひよっこ踊り」も披露され、大いに盛り上がりました。



道守ふくおか会議
三原くみこさん



道守佐賀会議
藤田和歌子さん



道守長崎会議
谷口雅樹さん

発表者のみなさん

「道守活動を通じた花と緑のまちづくり」 三原くみこ様
 「コエつなく、虹の松原の未来」 藤田和歌子様
 「ボランティア活動は世代も国籍も超える」 谷口雅樹様
 「九州を舞台に広がるひろがる」 阿南大吉様
 「鉄道と国道が平行するみちの景観美化」 成迫邦彰様
 「ばら通り220を通じ元気で明るいまちづくりを目指して」 西ノ原庄様
 「あなたの一票で推しの道の駅をNo.1に！」 米脩佑様
 「道の駅 絶景めぐりんカップ」 (宮崎大学根岸ゼミ)
 「アースティ31年が目指すもの」 佐伯卓信様

●現地体験学習の活動報告

宮崎大学地域資源創成学部の学生たちによって前日に行われた「現地体験学習」の3つのコースの体験が発表されました。

それぞれのコースの見どころや参加者の声を拾い上げ、当日参加できなかった方々にも、どんな体験ができたかが分るようなプレゼンテーションを披露しました。

●道守活動「コエる」連携体制とは

各県の道守会議からは「コエる」連携体制とはというお題目で、それぞれの地域でどんなユニークかつ効果的な協働を実践しているかを発表していただきました。自分たちの地域でも、そんな活動であればできるかもと、会場の参加者は熱心に聴き入っていました。



宮崎大学地域資源創成学部の学生たちによる、「現地体験学習」各コースの報告



道守ふくおか会議



道守佐賀会議



道守長崎会議



道守くまもと会議



道守大分会議



道守かごしま会議



今山大師境内入口のステージにて喜の(よしの)会による神輿奉納

【交流集会アトラクション】



山下商店街アーケードを利用した交流集会会場



道守みやざき会議

●大会宣言

交流会の最後のプログラムとして「みちづくし in のべおか 2025」の大会宣言案が実行委員会の坂本久美子さん(日之影町の道づくりを考える女性の会)と喜田鏡子さん

●意見交換会

「道守活動報告」終了後、会場内の参加者と、意見交換が行われました。活動報告の内容を踏まえたうえで、根岸実行委員長がファシリテーターを務め、会場内の参加者から質問や感想が発表されました。

今回、多くの皆様と一同にお会いでき、「道」の大切さそして有難さについてあらためて認識することができました。

開催にあたりまして多くの皆様のご尽力ご協力に改めて感謝申し上げます。道守活動の益々の発展を祈念しまして「みちづくし in のべおか 2025」にご来場いただき本当にありがとうございました。



ファシリテーターを務める根岸代表。会場からはたくさんの質問が飛び出し、活発な意見交換が行われました



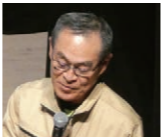
道守くまもと会議
阿南大吉さん



道守大分会議
成迫邦彰さん



道守かごしま会議
西ノ原庄一さん



道守みやざき会議
佐伯卓信さん



道守みやざき会議
米脩佑さん(宮崎大学根岸ゼミ)



坂本さんと喜田さん

●大会旗授与

「みちづくし in のべおか 2025」実行委員会の根岸委員長より、次回開催の道守佐賀会議・三原ユキ江代表世話人に「みちづくし」の大会旗が渡されました。

2026年は佐賀県の上峰町の道の駅をメイン会場に開催されることが発表されました。23年の歴史の中で県庁所在地や市以外の町で開催されるのは初めてのチャレンジとなります。

2026年11月20日(金)から21日(土)の2日間にわたり開催される予定です。最後に、実行委員会を代表して、道守活動を永年にわたって取組んでいく旭建設株式会社の黒木繁人社長から来場した方々にお礼を述べ、2日間の「みちづくし in のべおか 2025」は閉幕しました。九州中の道守さん！来年は上峰町に集結しましょう！というところで報告を終わらせていただきます。



旭建設黒木社長の閉会挨拶



次回開催地である佐賀・三原ユキ江代表へ大会旗授け渡し

●大会宣言

延岡の地において「道」を守り育てる活動を通じて多くの皆様と繋がりました。宮崎県そして、県北部地域は、かつて九州各地の皆様と繋がることは多くの困難を伴っていました。しかし、高速道路が着実に整備され、多くの皆様と「道」を通じて地域を越えて繋がることができるようになりました。

この「道」を守り育てる思いは、多様な組織の皆様が立場を超えて繋がりが育むことが大切であることを改めて確認しました。

九州では、大きな自然災害に見舞われ、私たちの生活を脅かす危機と常に隣り合わせとなっています。こうしたなか、地域や立場を越えお互いに協力し助け合う繋がりを持つことがこれを超える力となります。

今回、道守・道の駅・風景街道の三者が連携する取り組みとして、道の駅「北川はゆま」を核とした防災・地域づくりの連携事業をスタートさせていただきます。

この道守活動を、これからも地域や立場を越えた様々な連携(活動)により、広げていくことをここに宣言いたします。

みちづくし in のべおか 2025 実行委員会
 日之影町の道づくりを考える女性の会 坂本 久美子
 道づくりを考える高千穂女性の会 喜田 鏡子

(道づくりを考える高千穂女性の会)の、お二人によって読み上げられ、参加者の皆さんの承認を得て採択されました。

●道守功労者表彰

道守ふくおか会議 北九州市道路サポーター 高々南クリン隊
 道守ふくおか会議 けやき通り発展期成会
 道守佐賀会議 三原ユキ江氏
 道守長崎会議 谷口雅樹氏
 道守くまもと会議 井川寿範氏
 道守大分会議 別府市上ヶ丘町自治会
 道守みやざき会議 株式会社 五幸建設
 道守かごしま会議 株式会社 鹿児島銀行 川内支店

●道守奨励賞

道守長崎会議 大崎高等学校 野球部
 道守大分会議 NB 日本文理大学 附属高等学校
 道守みやざき会議 沖田なかと子ども会

●感謝状

山下新天街商店街振興組合



道守九州会議
塚原代表世話人



道守みやざき会議
根岸代表世話人



九州地方整備局
垣下局長



河野宮崎県知事



三浦延岡市長



オープニングアトラクションのばんば踊り

●道守活動

10月24日(金)

全九州から道守さんが集結して「道守活動」を実施。セブンイレブン記念財団からの助成を受け、野口遵記念館の前の歩道に新たな木製のプランターを設置。野口遵記念館と延岡市役所の周辺の歩道の清掃を、総勢400人を超える道守さんたちが参加して行いました。

野口遵記念館の前の歩道で、皆さんで花植えと清掃活動をしました



野口遵記念館の前の歩道で、皆さんで花植えと清掃活動をしました

●道守功労者表彰

永年、道守活動に貢献されてきた団体・個人の道守さんに道守功労者表彰と感謝状贈呈が行われました。

令和7年度は九州各県から、合計5組の団体と3名の個人の皆様有功労者を受賞しました。

プレゼンターは道守九州会議の塚原代表世話人が務め、令和7年度から次世代の道守として活躍を期待する3団体に奨励賞が授与されました。また交流集会の開催に「尽力いただいた山下新天街商店街振興組合」に感謝状が贈られました。

受賞者を代表して奨励賞を受賞したNB 日本文理大学附属高等学校の生徒により活動報告が行われました。記念品として延岡の郷土玩具の「のぼりざる」が贈られました。令和7年度の受賞者は左記の通りです。



表彰された皆さん



NBU日本文理大学附属高校の学生による道守活動の発表



塚原代表世話人より表彰

(みちづくしに参加して)

宮崎大学学生のレポート

◆ 参加した感想

- 交流集会で他県の方や様々な年代の方と交流でき、楽しかった
- 地域の歴史や風景をより深く知ることができた
- 交流集会で道守活動にかかわる多くの方と交流する機会を得て、地域を支える人々の思いや取り組みへの理解が深まった。地域にかかわる意義を考える貴重な機会となった
- 自分が詳しいと思っていた地域でも、自分の知らない文化がまだ眠っているということが面白かった
- もっと学生や若い世代の参加があればいいなと感じた



おそろいの法被を着て見学。バスの中ではゼミの企画の説明も

◆ 発表を聞いて学んだこと

- 同じ課題を抱えているように見える地域でも、画一的な政策ではなく、その地域ならではの文化や歴史、地理的条件を踏まえて地域ごとの深い分析が不可欠であると感じた
- 行政に頼るのではなく、自ら考え自治体、企業、市民を巻き込んだ道の保全、整備を行っており、発表した方のいいところを学んで今後の地域づくりの参考にしていきたい
- 道路は移動のためだけではなく、地域の安全や景観、そして地域の誇りを支える大切な資源で

が参加している事例を聞いてみたい

- 若者に道守活動に興味を持ってもらうためにやっていること
- 子どもの地域教育にもつなげている点において、かわるうえで注意すべき点はどこか、より詳しく知りたい
- 登壇された方以外の方の活動内容について詳細を知りたい
- どのような人や企業・団体のひなが多く参加しているのか
- 全国的に行われている活動の概要について聞いてみたい



道守みやざき会議の皆さんと

交流集会も楽しみました

自然を愛する会J・O・Cのレポート

◆ 参加した感想

- 「みちづくし」にかかわる人の多さに驚いた。また、活動について知るきっかけになってよかった
- 道路だけでなく、鉄道や自然など幅広く貢献しているすごいと思った。これぞ終わりにするのではなく、自分ができることを探してもっと貢献していけるように頑張りたい

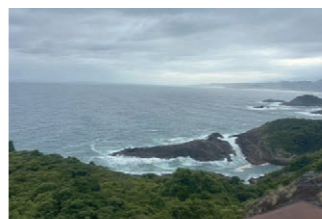


交流集会ではたくさんの方のお話を聞きました

道守九州会議では、R7年度より、若者たちへ道守活動を広報し、道守活動の活性化を図る目的で、大学生以下の若い世代の方へみちづくし参加費用の一部補助を始めました。ご参加いただいた学生の皆さんからいただいたレポートの一部を掲載します。R8年度も継続予定です。ぜひ周囲で活動している学生の皆さんへお声がけをお願いします！「みちづくし in かみみね 2026」へのご参加お待ちしております。

あることを学んだ

- 清掃や植栽管理といった活動が交通安全の向上につながり、地域住民・企業・行政が協力することで継続的な地域づくりが進むことが理解できた
- 「道守活動」という活動があり、その団体の方が積極的に行動していることに感銘を受けた
- 他県でも大学や高校生との連携を行っており、若い世代の参加が徐々に増えていることが、とても未来のある活動だと感じた
- 子どもの教育も兼ねて活動されている点が、子どもに愛着を生み出し、そこに魅力を感じた



日向コース クルスの海



高千穂コース 観光神楽鑑賞



日向コースの写経体験

みちづくしにて道の駅企画事例発表

◆ 自分でも取り組む事ができ、活動をよくするなどのアイデア

- ゼミに入るまで道守活動について全く知らなかったため、大学内で活動を知ってもらう機会を作るなど、認知度を上げる取り組みを行うことはできるのではないか

様々な方の話を直接聞く事が出来たことは、とても学びになった

- 道路や街の環境は誰かが整備したり、人の力によって守られていると感じ、改めて感謝の気持ちをもって大切に使うことや、維持できるように少しでもきれいにするという意識を持ちたいと思った
- 様々な話を聞く中で、自分たちにもできることが多くあると感じ、道守活動が身近な存在に思えた
- 自分たちの活動を少しでもほかの人に知ってもらえる機会となり良かった

◆ 発表を聞いて学んだこと

- 「道守活動」で具体的にどんなことをしているか知ることができた。また、様々な人が前向きに取り組んでいる姿に、ボランティアはやらされるのではなく、貢献したい、支えたいという気持ちが大切だと改めて感じた
- 様々な団体や会社、学校などで多くの人が地域に貢献できるような活動をされていることが分かった。また、幅広い年齢の方がともに活動されていて、人とのつながりが広がるためにもとても良いと感じた
- 「みちづくし」を通して自分たちにもできることがあると思っ、いろいろなことを様々な視点から幅広く学ぶ事が出来た
- ボランティア活動を「大変なもの」としてではなく、「楽しみながら続けている」という姿勢が印象に残った

◆ 自分でも取り組む事ができ、活動をよくするなどのアイデア

- 参加してくれる子どもたちがより楽しめるにはどんな準備が必要か、参加してくれる子どもと一緒に活動してくれるリーダーを増やすための宣伝だけではなく、地域と協力しながら様々な活動を取り入れていくことなど
- 地域の公共場の道路のゴミ拾いや清掃、花壇の整備は、住みやすいまちにするためにとても大事

キャンパスの周辺や通学路の清掃・草取りなどミニ道守活動をすることで、環境の整備・改善、地域貢献につながる

- ゼミの活動で、道の駅のスタンプイベントを開催した。好評であれば来年は道守活動を周知していくための取り組みを考えたい
- 観光地のフィールドワークを行うことで、地域の課題や魅力を把握する事。他地域の成功例を参考に小さく試せる企画を取り入れて活動の質を高める事
- ある程度年齢層が決まっていたので、学生も普段の活動に参加することで良い活動ができるのではないかと子どもにも興味を持ってもらえるような企画内容にすること
- 地域の企業とのコラボ

- 鹿屋のバラ通りでは年中バラを咲かせることができていくのか気になった
- ボランティアやイベントの人集めで、工夫している点、苦労された点など
- JRと合同での活動がすごく印象的であったので、今後どのように広げていく予定か聞いてみたい、ほかにも企業

◆ 発表内容及びそれ以外について聞きたいこと

- 無理のない範囲で楽しみながら継続することの大切さを感じた
- 活動の様子をSNSなどを通して友人や知人に紹介することで、関心を持つ人を増やすことができると思った
- 子どもたちにも地域や身近な環境に目を向ける機会を作ること、活動の幅を広げられるのではないかと考えた



道守活動で花植え



根岸ゼミ3年生が実施した「道の駅めぐりんカップ」



道の駅スタンプラリーのパンフレット

◆ 発表内容及びそれ以外について聞きたいこと

- 学生はどういうきっかけで活動し始めたのか
- 道守とは具体的にどんな活動をどの範囲で行っているのか、詳しく知りたい
- 宮崎大学の学生による、道の駅を活用した地域貢献活動に特に関心を持った。活動を始めたきっかけや、企画・運営の内容、地域の方とのかわりや、継続するための工夫などをもっと知りたい
- 今回発表されなかった団体についても知りたい
- 大学生が、ほかにどんな活動をしているのか詳しく知りたい
- 表彰された方の具体的な活動や、長年続けてこられた原動力について聞いてみたい



朝の道守活動 道守くまもと会議の皆さんと

みちづくし in かみみね(佐賀県)2026 開催決定!



道守九州会議交流大会

テーマ みち語る上峰～弥生・街道・伝説を歩く～

2026年みちづくしは、佐賀県開催です。初めて市以外の開催となる佐賀県三養基郡上峰町が舞台です。交流会では、「道」が語り継ぎ紡いでいく、地域の記憶、歴史、人々の営みとその未来をテーマにパネルディスカッションを計画しています。交流集会は、「道の駅 かみみね」を舞台に開催します。こちらも道の駅を会場とする初めての試みとなりますが、みなさまに楽しんでいただけるよう準備を進めております。5月上旬よりご案内予定です。多くのお参加を心よりお待ちしております。



2026.11.20-21

【11月20日(金)】

交流会

上峰町民センター

- 自家用車……長崎自動車道 東脊振ICを降りて約15分(約6.4km) ※駐車場あり
- シャトルバス…… JR吉野ヶ里公園駅から8分(約4km)
JR新鳥栖駅から25分(約10km)
- ※JR吉野ヶ里公園駅発、JR新鳥栖駅発シャトルバスを運行予定です
- ※町巡回バス、西鉄バス等でもご来場いただけます



住所:佐賀県三養基郡上峰町大字坊所319番地4

交流集会

道の駅 かみみね

- 自家用車……上峰町民センターより約6分(約2.2km)
- シャトルバス……上峰町民センターより運行約6分(約2.2km)



住所:佐賀県三養基郡上峰町大字坊所1550-3



【11月21日(土)】

現地体験学習

A コース: 錦秋の佐賀 秋色に染まる、歴史ロマン紀行～九年庵の紅葉と吉野ヶ里の風～

●吉野ヶ里遺跡は日本最大級の弥生時代(紀元前～紀元後)環濠集落跡で、約2,500mにも及ぶ壕(堀)や復元された住居・高床倉庫などが見られます。邪馬台国との関係が議論される遺跡として、歴史ロマンを感じながら歩くことができます。



国営吉野ヶ里歴史公園

●九年庵は、明治の実業家・伊丹弥太郎が9年の歳月をかけて完成させた別邸と庭園。秋に期間限定で一般公開されており、紅葉と苔が織りなす圧倒的な景観をお楽しみください。



九年庵

B コース: 豊穡の里と酒蔵情緒を巡る街道旅ありあけ海道～トレジャーロード～

●肥前浜宿は、長崎街道の脇街道として栄えた宿場町。白壁土蔵や格子戸の町家が今も残り、歩くだけで江戸～明治の空気を感じられる町並みで、複数の老舗酒蔵が並び、「歴史・酒・町並み・人」が一体となった魅力を味わうことができます。



肥前浜宿・酒蔵通り



道の駅しろいし

●ありあけ海道ルートで立ち寄る「道の駅しろいし」は、白石町産のスイーツ・海苔・水産品など多彩な商品が揃っており、2階の展望スペースからは、爽やかな海風と広々とした風景を楽しむことができます。

詳しくは秋号にて!

みちづくし in のべおか 2025 参加レポート

沖田なかよし子ども会へのレポート

NBU日本文理大学附属高校のレポート(奨励賞受賞団体)

◆参加した感想

●たくさんの人に見られてはすかしかったです
●色んな人が表彰されてたと思った
●舞台上立って楽しかった

◆いつも行っている道守活動

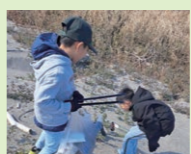
- 浜のクリーン作戦
- 地区の資源回収
- 自主的なゴミ拾い
- 公園のゴミ拾い

◆道守活動を始めたきっかけ

- 1年生の時にゴミ拾いについて知り、続けています
- 公園で遊んでいたら、タバコのゴミや危ないビンとかを赤ちゃんや小さい子が拾ってしまふところを見て、拾おうと思った
- 姉たちがしているのを見て、自分もやることにした
- ゴミが落ちていてから拾う! ゴミは落ちてはいるんじゃないかと、誰かが捨ててる! ダメ!
- 友だちと一緒にすることがたのしいから



少子高齢化が進む中、レクリエーションを取入れながら、地域のゴミ拾いなど清掃活動をスタートしました。自分のゴミは自分で捨てるという意識と、ゴミを拾うという行動を通して、自分たちが暮らす町をキレイにするという地域愛も育ててほしいという思いで活動中です。



みちづくしLinのべおかではみんなで賞状をもらいました



みちづくしLinのべおかではみんなで賞状をもらいました

◆参加した感想

●猪野迫天翔さん
先輩から受け継いだ自分たちの地道な活動が認められてとてもうれしです。道守活動は後輩たちにも続けていってほしいのでこれからも頑張りたいと思います。発表ではあまり大勢に話す機会がなく緊張や不安などがありました。社会人になったときの勉強になりました。ありがとうございました。

●伊東叶希さん

道守活動の規模が想像よりも大きく、会場に集まっていた関係者の数に驚きました。九州の様々な県から表彰者が集まっており、その一つの活動に感銘を受けました。印象に残っているのは、延岡のこども園の小さい子達が表彰されていたことです。発表は緊張して早口になってしま、あまり良い発表ができなかったです。ですが、発表後に「頑張ってたね」と声をかけてもらえて嬉しかったです。今回受賞することができた花の水やりをこれからも頑張ります。佐伯市を美しくしていきたいです。ありがとうございました。



ケーブルテレビの取材では、みちづくしに参加した感想を話しました。

◆活動報告(大分合同新聞より抜粋)



理大(高)小(小)和成校長、489人(計)は、全県高校生代表として市内各高校活動として市内各所で清掃活動した。1年(高)山田(高)2年(高)山田(高)3年(高)山田(高)4年(高)山田(高)5年(高)山田(高)6年(高)山田(高)7年(高)山田(高)8年(高)山田(高)9年(高)山田(高)10年(高)山田(高)11年(高)山田(高)12年(高)山田(高)13年(高)山田(高)14年(高)山田(高)15年(高)山田(高)16年(高)山田(高)17年(高)山田(高)18年(高)山田(高)19年(高)山田(高)20年(高)山田(高)21年(高)山田(高)22年(高)山田(高)23年(高)山田(高)24年(高)山田(高)25年(高)山田(高)26年(高)山田(高)27年(高)山田(高)28年(高)山田(高)29年(高)山田(高)30年(高)山田(高)31年(高)山田(高)32年(高)山田(高)33年(高)山田(高)34年(高)山田(高)35年(高)山田(高)36年(高)山田(高)37年(高)山田(高)38年(高)山田(高)39年(高)山田(高)40年(高)山田(高)41年(高)山田(高)42年(高)山田(高)43年(高)山田(高)44年(高)山田(高)45年(高)山田(高)46年(高)山田(高)47年(高)山田(高)48年(高)山田(高)49年(高)山田(高)50年(高)山田(高)51年(高)山田(高)52年(高)山田(高)53年(高)山田(高)54年(高)山田(高)55年(高)山田(高)56年(高)山田(高)57年(高)山田(高)58年(高)山田(高)59年(高)山田(高)60年(高)山田(高)61年(高)山田(高)62年(高)山田(高)63年(高)山田(高)64年(高)山田(高)65年(高)山田(高)66年(高)山田(高)67年(高)山田(高)68年(高)山田(高)69年(高)山田(高)70年(高)山田(高)71年(高)山田(高)72年(高)山田(高)73年(高)山田(高)74年(高)山田(高)75年(高)山田(高)76年(高)山田(高)77年(高)山田(高)78年(高)山田(高)79年(高)山田(高)80年(高)山田(高)81年(高)山田(高)82年(高)山田(高)83年(高)山田(高)84年(高)山田(高)85年(高)山田(高)86年(高)山田(高)87年(高)山田(高)88年(高)山田(高)89年(高)山田(高)90年(高)山田(高)91年(高)山田(高)92年(高)山田(高)93年(高)山田(高)94年(高)山田(高)95年(高)山田(高)96年(高)山田(高)97年(高)山田(高)98年(高)山田(高)99年(高)山田(高)100年(高)山田(高)101年(高)山田(高)102年(高)山田(高)103年(高)山田(高)104年(高)山田(高)105年(高)山田(高)106年(高)山田(高)107年(高)山田(高)108年(高)山田(高)109年(高)山田(高)110年(高)山田(高)111年(高)山田(高)112年(高)山田(高)113年(高)山田(高)114年(高)山田(高)115年(高)山田(高)116年(高)山田(高)117年(高)山田(高)118年(高)山田(高)119年(高)山田(高)120年(高)山田(高)121年(高)山田(高)122年(高)山田(高)123年(高)山田(高)124年(高)山田(高)125年(高)山田(高)126年(高)山田(高)127年(高)山田(高)128年(高)山田(高)129年(高)山田(高)130年(高)山田(高)131年(高)山田(高)132年(高)山田(高)133年(高)山田(高)134年(高)山田(高)135年(高)山田(高)136年(高)山田(高)137年(高)山田(高)138年(高)山田(高)139年(高)山田(高)140年(高)山田(高)141年(高)山田(高)142年(高)山田(高)143年(高)山田(高)144年(高)山田(高)145年(高)山田(高)146年(高)山田(高)147年(高)山田(高)148年(高)山田(高)149年(高)山田(高)150年(高)山田(高)151年(高)山田(高)152年(高)山田(高)153年(高)山田(高)154年(高)山田(高)155年(高)山田(高)156年(高)山田(高)157年(高)山田(高)158年(高)山田(高)159年(高)山田(高)160年(高)山田(高)161年(高)山田(高)162年(高)山田(高)163年(高)山田(高)164年(高)山田(高)165年(高)山田(高)166年(高)山田(高)167年(高)山田(高)168年(高)山田(高)169年(高)山田(高)170年(高)山田(高)171年(高)山田(高)172年(高)山田(高)173年(高)山田(高)174年(高)山田(高)175年(高)山田(高)176年(高)山田(高)177年(高)山田(高)178年(高)山田(高)179年(高)山田(高)180年(高)山田(高)181年(高)山田(高)182年(高)山田(高)183年(高)山田(高)184年(高)山田(高)185年(高)山田(高)186年(高)山田(高)187年(高)山田(高)188年(高)山田(高)189年(高)山田(高)190年(高)山田(高)191年(高)山田(高)192年(高)山田(高)193年(高)山田(高)194年(高)山田(高)195年(高)山田(高)196年(高)山田(高)197年(高)山田(高)198年(高)山田(高)199年(高)山田(高)200年(高)山田(高)201年(高)山田(高)202年(高)山田(高)203年(高)山田(高)204年(高)山田(高)205年(高)山田(高)206年(高)山田(高)207年(高)山田(高)208年(高)山田(高)209年(高)山田(高)210年(高)山田(高)211年(高)山田(高)212年(高)山田(高)213年(高)山田(高)214年(高)山田(高)215年(高)山田(高)216年(高)山田(高)217年(高)山田(高)218年(高)山田(高)219年(高)山田(高)220年(高)山田(高)221年(高)山田(高)222年(高)山田(高)223年(高)山田(高)224年(高)山田(高)225年(高)山田(高)226年(高)山田(高)227年(高)山田(高)228年(高)山田(高)229年(高)山田(高)230年(高)山田(高)231年(高)山田(高)232年(高)山田(高)233年(高)山田(高)234年(高)山田(高)235年(高)山田(高)236年(高)山田(高)237年(高)山田(高)238年(高)山田(高)239年(高)山田(高)240年(高)山田(高)241年(高)山田(高)242年(高)山田(高)243年(高)山田(高)244年(高)山田(高)245年(高)山田(高)246年(高)山田(高)247年(高)山田(高)248年(高)山田(高)249年(高)山田(高)250年(高)山田(高)251年(高)山田(高)252年(高)山田(高)253年(高)山田(高)254年(高)山田(高)255年(高)山田(高)256年(高)山田(高)257年(高)山田(高)258年(高)山田(高)259年(高)山田(高)260年(高)山田(高)261年(高)山田(高)262年(高)山田(高)263年(高)山田(高)264年(高)山田(高)265年(高)山田(高)266年(高)山田(高)267年(高)山田(高)268年(高)山田(高)269年(高)山田(高)270年(高)山田(高)271年(高)山田(高)272年(高)山田(高)273年(高)山田(高)274年(高)山田(高)275年(高)山田(高)276年(高)山田(高)277年(高)山田(高)278年(高)山田(高)279年(高)山田(高)280年(高)山田(高)281年(高)山田(高)282年(高)山田(高)283年(高)山田(高)284年(高)山田(高)285年(高)山田(高)286年(高)山田(高)287年(高)山田(高)288年(高)山田(高)289年(高)山田(高)290年(高)山田(高)291年(高)山田(高)292年(高)山田(高)293年(高)山田(高)294年(高)山田(高)295年(高)山田(高)296年(高)山田(高)297年(高)山田(高)298年(高)山田(高)299年(高)山田(高)300年(高)山田(高)301年(高)山田(高)302年(高)山田(高)303年(高)山田(高)304年(高)山田(高)305年(高)山田(高)306年(高)山田(高)307年(高)山田(高)308年(高)山田(高)309年(高)山田(高)310年(高)山田(高)311年(高)山田(高)312年(高)山田(高)313年(高)山田(高)314年(高)山田(高)315年(高)山田(高)316年(高)山田(高)317年(高)山田(高)318年(高)山田(高)319年(高)山田(高)320年(高)山田(高)321年(高)山田(高)322年(高)山田(高)323年(高)山田(高)324年(高)山田(高)325年(高)山田(高)326年(高)山田(高)327年(高)山田(高)328年(高)山田(高)329年(高)山田(高)330年(高)山田(高)331年(高)山田(高)332年(高)山田(高)333年(高)山田(高)334年(高)山田(高)335年(高)山田(高)336年(高)山田(高)337年(高)山田(高)338年(高)山田(高)339年(高)山田(高)340年(高)山田(高)341年(高)山田(高)342年(高)山田(高)343年(高)山田(高)344年(高)山田(高)345年(高)山田(高)346年(高)山田(高)347年(高)山田(高)348年(高)山田(高)349年(高)山田(高)350年(高)山田(高)351年(高)山田(高)352年(高)山田(高)353年(高)山田(高)354年(高)山田(高)355年(高)山田(高)356年(高)山田(高)357年(高)山田(高)358年(高)山田(高)359年(高)山田(高)360年(高)山田(高)361年(高)山田(高)362年(高)山田(高)363年(高)山田(高)364年(高)山田(高)365年(高)山田(高)366年(高)山田(高)367年(高)山田(高)368年(高)山田(高)369年(高)山田(高)370年(高)山田(高)371年(高)山田(高)372年(高)山田(高)373年(高)山田(高)374年(高)山田(高)375年(高)山田(高)376年(高)山田(高)377年(高)山田(高)378年(高)山田(高)379年(高)山田(高)380年(高)山田(高)381年(高)山田(高)382年(高)山田(高)383年(高)山田(高)384年(高)山田(高)385年(高)山田(高)386年(高)山田(高)387年(高)山田(高)388年(高)山田(高)389年(高)山田(高)390年(高)山田(高)391年(高)山田(高)392年(高)山田(高)393年(高)山田(高)394年(高)山田(高)395年(高)山田(高)396年(高)山田(高)397年(高)山田(高)398年(高)山田(高)399年(高)山田(高)400年(高)山田(高)401年(高)山田(高)402年(高)山田(高)403年(高)山田(高)404年(高)山田(高)405年(高)山田(高)406年(高)山田(高)407年(高)山田(高)408年(高)山田(高)409年(高)山田(高)410年(高)山田(高)411年(高)山田(高)412年(高)山田(高)413年(高)山田(高)414年(高)山田(高)415年(高)山田(高)416年(高)山田(高)417年(高)山田(高)418年(高)山田(高)419年(高)山田(高)420年(高)山田(高)421年(高)山田(高)422年(高)山田(高)423年(高)山田(高)424年(高)山田(高)425年(高)山田(高)426年(高)山田(高)427年(高)山田(高)428年(高)山田(高)429年(高)山田(高)430年(高)山田(高)431年(高)山田(高)432年(高)山田(高)433年(高)山田(高)434年(高)山田(高)435年(高)山田(高)436年(高)山田(高)437年(高)山田(高)438年(高)山田(高)439年(高)山田(高)440年(高)山田(高)441年(高)山田(高)442年(高)山田(高)443年(高)山田(高)444年(高)山田(高)445年(高)山田(高)446年(高)山田(高)447年(高)山田(高)448年(高)山田(高)449年(高)山田(高)450年(高)山田(高)451年(高)山田(高)452年(高)山田(高)453年(高)山田(高)454年(高)山田(高)455年(高)山田(高)456年(高)山田(高)457年(高)山田(高)458年(高)山田(高)459年(高)山田(高)460年(高)山田(高)461年(高)山田(高)462年(高)山田(高)463年(高)山田(高)464年(高)山田(高)465年(高)山田(高)466年(高)山田(高)467年(高)山田(高)468年(高)山田(高)469年(高)山田(高)470年(高)山田(高)471年(高)山田(高)472年(高)山田(高)473年(高)山田(高)474年(高)山田(高)475年(高)山田(高)476年(高)山田(高)477年(高)山田(高)478年(高)山田(高)479年(高)山田(高)480年(高)山田(高)481年(高)山田(高)482年(高)山田(高)483年(高)山田(高)484年(高)山田(高)485年(高)山田(高)486年(高)山田(高)487年(高)山田(高)488年(高)山田(高)489年(高)山田(高)490年(高)山田(高)491年(高)山田(高)492年(高)山田(高)493年(高)山田(高)494年(高)山田(高)495年(高)山田(高)496年(高)山田(高)497年(高)山田(高)498年(高)山田(高)499年(高)山田(高)500年(高)山田(高)501年(高)山田(高)502年(高)山田(高)503年(高)山田(高)504年(高)山田(高)505年(高)山田(高)506年(高)山田(高)507年(高)山田(高)508年(高)山田(高)509年(高)山田(高)510年(高)山田(高)511年(高)山田(高)512年(高)山田(高)513年(高)山田(高)514年(高)山田(高)515年(高)山田(高)516年(高)山田(高)517年(高)山田(高)518年(高)山田(高)519年(高)山田(高)520年(高)山田(高)521年(高)山田(高)522年(高)山田(高)523年(高)山田(高)524年(高)山田(高)525年(高)山田(高)526年(高)山田(高)527年(高)山田(高)528年(高)山田(高)529年(高)山田(高)530年(高)山田(高)531年(高)山田(高)532年(高)山田(高)533年(高)山田(高)534年(高)山田(高)535年(高)山田(高)536年(高)山田(高)537年(高)山田(高)538年(高)山田(高)539年(高)山田(高)540年(高)山田(高)541年(高)山田(高)542年(高)山田(高)543年(高)山田(高)544年(高)山田(高)545年(高)山田(高)546年(高)山田(高)547年(高)山田(高)548年(高)山田(高)549年(高)山田(高)550年(高)山田(高)551年(高)山田(高)552年(高)山田(高)553年(高)山田(高)554年(高)山田(高)555年(高)山田(高)556年(高)山田(高)557年(高)山田(高)558年(高)山田(高)559年(高)山田(高)560年(高)山田(高)561年(高)山田(高)562年(高)山田(高)563年(高)山田(高)564年(高)山田(高)565年(高)山田(高)566年(高)山田(高)567年(高)山田(高)568年(高)山田(高)569年(高)山田(高)570年(高)山田(高)571年(高)山田(高)572年(高)山田(高)573年(高)山田(高)574年(高)山田(高)575年(高)山田(高)576年(高)山田(高)577年(高)山田(高)578年(高)山田(高)579年(高)山田(高)580年(高)山田(高)581年(高)山田(高)582年(高)山田(高)583年(高)山田(高)584年(高)山田(高)585年(高)山田(高)586年(高)山田(高)587年(高)山田(高)588年(高)山田(高)589年(高)山田(高)590年(高)山田(高)591年(高)山田(高)592年(高)山田(高)593年(高)山田(高)594年(高)山田(高)595年(高)山田(高)596年(高)山田(高)597年(高)山田(高)598年(高)山田(高)599年(高)山田(高)600年(高)山田(高)601年(高)山田(高)602年(高)山田(高)603年(高)山田(高)604年(高)山田(高)605年(高)山田(高)606年(高)山田(高)607年(高)山田(高)608年(高)山田(高)609年(高)山田(高)610年(高)山田(高)611年(高)山田(高)612年(高)山田(高)613年(高)山田(高)614年(高)山田(高)615年(高)山田(高)616年(高)山田(高)617年(高)山田(高)618年(高)山田(高)619年(高)山田(高)620年(高)山田(高)621年(高)山田(高)622年(高)山田(高)623年(高)山田(高)624年(高)山田(高)625年(高)山田(高)626年(高)山田(高)627年(高)山田(高)628年(高)山田(高)629年(高)山田(高)630年(高)山田(高)631年(高)山田(高)632年(高)山田(高)633年(高)山田(高)634年(高)山田(高)635年(高)山田(高)636年(高)山田(高)637年(高)山田(高)638年(高)山田(高)639年(高)山田(高)640年(高)山田(高)641年(高)山田(高)642年(高)山田(高)643年(高)山田(高)644年(高)山田(高)645年(高)山田(高)646年(高)山田(高)647年(高)山田(高)648年(高)山田(高)649年(高)山田(高)650年(高)山田(高)651年(高)山田(高)652年(高)山田(高)653年(高)山田(高)654年(高)山田(高)655年(高)山田(高)656年(高)山田(高)657年(高)山田(高)658年(高)山田(高)659年(高)山田(高)660年(高)山田(高)661年(高)山田(高)662年(高)山田(高)663年(高)山田(高)664年(高)山田(高)665年(高)山田(高)666年(高)山田(高)667年(高)山田(高)668年(高)山田(高)669年(高)山田(高)670年(高)山田(高)671年(高)山田(高)672年(高)山田(高)673年(高)山田(高)674年(高)山田(高)675年(高)山田(高)676年(高)山田(高)677年(高)山田(高)678年(高)山田(高)679年(高)山田(高)680年(高)山田(高)681年(高)山田(高)682年(高)山田(高)683年(高)山田(高)684年(高)山田(高)685年(高)山田(高)686年(高)山田(高)687年(高)山田(高)688年(高)山田(高)689年(高)山田(高)690年(高)山田(高)691年(高)山田(高)692年(高)山田(高)693年(高)山田(高)694年(高)山田(高)695年(高)山田(高)696年(高)山田(高)697年(高)山田(高)698年(高)山田(高)699年(高)山田(高)700年(高)山田(高)701年(高)山田(高)702年(高)山田(高)703年(高)山田(高)704年(高)山田(高)705年(高)山田(高)706年(高)山田(高)707年(高)山田(高)708年(高)山田(高)709年(高)山田(高)710年(高)山田(高)711年(高)山田(高)712年(高)山田(高)713年(高)山田(高)714年(高)山田(高)715年(高)山田(高)716年(高)山田(高)717年(高)山田(高)718年(高)山田(高)71



R7 作業風景



酒谷さくら街道



沿道の赤そば「高嶺ルビー」



一日2,000個売れる草だんご

(酒谷むらおこし株式会社
代表取締役 日高茂信)

私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介いたします。

「何も無い」から

「酒谷さくら街道」へ

私は、平成5年から地域の皆さんと協議会を結成し、地域づくり活動を続けています。発足当時に聞こえてきたのは「酒谷は、何も無い」の声でした。「何もなければ、創ろう」と思い、祭り等のイベントを企画し開催しました。

当初は、経費と収入とのバランスで大変苦労しましたが、この取り組みは情報発信に効果的でした。継続的な活動をするために様々な効率性を考えた結果、地域内の環境美化活動を開始しました。四季折々の花木を植栽することで交流人口が増え、酒谷の活性化にも繋がることを期待し、地区内国道(総延長20キロ)沿いに植樹した桜は今年で32年目です。素晴らしい桜街道が出来上がりました。

また、数年前から道の駅内にバラ園を造りました。年目は病気を害虫で大変苦労しましたが、二年目は殺菌殺虫に着手し、今では美しい花を年中楽しめます。このように道守活動は、様々な団体や行政等のご協力を頂き、その交流を通してアイデアと元気を頂いています。これからもネットワークを広げながら、地域の為に自分の為にも生かしている活動を続けていきたいと思っています。



バラ園と茅葺屋根



唐房トンネルを抜けると前方に玄界灘の唐津の海



立神岩周辺(九州サーフィン発祥の地)右奥は古代ロマン漂う神集島

わたしの好きな道

ルート・グランブルー(ジャック・マイヨールが愛した海)の愛称に込めた思い ～佐賀県唐津市 国道204号～

2023年11月に国道204号唐房バイパスの開通を機に、唐房くっ呼子く名護屋く波戸岬までの約20km区間の愛称を『ルート・グランブルー(ジャック・マイヨールが愛した海)』と名付けられました。唐房トンネルを抜けると前方に玄界灘の唐津の海が開け、北浜海水浴場・立神岩・七ツ釜へと唐津が世界に誇る美しい海に沿って国道204号が走っています。幼少期は、海水浴や立神岩に登ったり、魚釣り、磯遊び、七ツ釜や呼子へ遠足もあり、自然と親しむ機会が数多くありました。北浜海水浴場は、約800mの遠浅のきれいな海岸で透明度が高い青い海が広がっています。隣接する松原は【虹の松原】には遠く及びませんが、玄界灘を背にして広がる松原は絶景です。立神岩は荒波にも負けず寄り添うように立っていることから『夫婦岩』とも呼ばれ、周辺は九州サーフィン発祥の地と知られ、一年中サーフィンを楽しむ人でにぎわっています。残念ですが、2005年3月20日に発生した福岡県西方沖地震の影響で立神岩へ通じる道が今でも交通止めとなっており遠くから眺めることしかできません。七ツ釜は柱状節理をなす玄武岩が荒波に浸食されてできた7つの海食洞があり、展望台からの眺めは絶景で、船上からは柱状の玄武岩が積層した断崖は自然のつくった芸術品です。又、湊の沖1kmには、神集島があり、島名は、神功皇后が新羅出兵に際して行われた儀式のときに、神々を集めて海上の安全を祈ったことに由来するといわれている古代ロマン漂うスポットもあります。

湊の先の呼子は、日本三大朝市・イカ刺身が有名で、名護屋は、豊臣秀吉が築城した名護屋城跡があり、波戸岬は、サザエのつぼ焼き売店・海中展望塔があります。ルート沿いには紹介していない景勝地や海の幸を楽しめるエリアがたくさんあります。砂利道がアスファルトの道となり、車道が広くなり、歩道が設けられ、愛称をルート・グランブルーと名付けられたが、そこに集う人たちが自分たちで町を輝かせ、行政との協働でルート・グランブルーがより良き方向に進むことを願います。

今も毎日、白い砂、青い松、潮風、磯の香を四季折々感じながら、この道を通勤しています。



白砂青松の北浜海水浴場

プロフィール

伊藤 俊徳 (いとう・としのり)

所属：唐津土建工業株式会社
道守佐賀会議 事務局



宮崎

日之影町の道づくりを考える女性の会 西臼杵郡日之影町

日之影町の道づくりを考える女性の会 活動報告

私たちは、平成16年に設立し、高速道路整備の促進を呼びかける活動を行っている団体で、会員数29名で組織しています。



日之影町の名橋「青雲橋」谷を渡るトラスアーチの橋は、まるで空に架かっているような壮麗な眺めです

私たちの住む日之影町は、宮崎県北西部の山あいに位置し、人口約三千三百人の中山間地域です。日頃より車による移動を余儀なくされる地域の為、平成30年に九州中央自動車道の一部が町内に開通したときの喜びは今も忘れません。

災害時の輸送路確保や都市部へのアクセス向上、地域経済の発展等、「命の道」「生活の道」「経済の道」である高速道路の整備が何よりの願いであります。このような中、2年ほど前に延岡河川国道事務所より「道守会議」について説明いただき、加入させていただきました。「道守」の活動はまだ2年目で、主な活動は国道のゴミ拾い等の清掃活動です。せっかく整備していただいた道路なので、私たちの活動が少しでも道路維持の役に立ってほしいと思っております。今後、小さな活動ですが地道に活動を通じて、道路整備への恩返しをさせていただきます。



青雲橋歩道部の泥上げ・草引き



日之影町の美しい風景街道を守る活動を女性の会でを行っています

(会長 坂本久美子)

九州工業大学大学院(北九州市)

福岡



道守活動に関する研究を行つていきます！

私は道守ふくおか会議顧問である吉武哲信先生の下、道守活動に関する研究を行つていきます。これまで、NPO法人はかた夢松原の会が実施されている国体道路花いっぱい運動を対象に、活動の実態について調査してきました。はかた夢松原の会が、活動を広げ運営していく中で苦勞された点や工夫されている点について、



柳川市での研究成果発表



道守活動について考える機会をいただきました

多くのお話をさせていただきました。また、研究を進めるにあたって、道守ふくおか会議事務局長の柳田さんをはじめとする、多くの方にお世話になりました。今後は研究の目線を、活動を進めるうえで欠かせない行政の方々に向け、道守活動に対するお考えを整理させていただければと思います。さらに、調査以外にも鹿屋、延岡のみちづくしに参加させていただき、多くの方と交流させていきたいと思います。今後も道守ふくおか会議に留まらず、各県の道守会員の方と交流していきたいと思つています。次回のみちづくしにも参加しますので、気軽にお声掛けしていただくと嬉しいですよ！

(交通大学研究室 竹之内 洸大)

熊本



道守くまもと会議(熊本市)

「言葉、画像、発信力」強化を

昨年10月開催予定だった「やまなみハイウェイ一斉清掃作業」は、雨予報のため中止という判断をいたしました。安全を最優先とした決断ではありましたが、準備を進めてきただけに残念な思いもあります。今後は、6月のシンポジウム、そして10月の清掃活動へと計画的に取り組んでまいります。



道守活動にかかわるたくさんの人と話すことができ、貴重な経験になりました



朝の道守活動(花植え)後、くまもと会議の皆さんと

「みちづくしinのべおか」に参加いたしました。道守九州会議からのご支援をいただき、大学生メンバー4名を連れての参加でした。宮崎大学の発表や各県会議の取り組みながら継続する「大切さを学んだ」との報告がありました。改善点として、いかに発信するかの「見せる」と、どの様に表現するか「魅せる」のありかたの違いを認識しました。若者の意見を「過性のもの」にせず、今にフィットした「言葉」と「画像」、そして「発信力」を高めたいと思つ、学生達の自由な発想と創造力を、世話人会が後方支援する体制づくりを提案してまいります。次世代のメンバーとともに、楽しみながら活動の輪をさらに広げていきたいと思つております。

(道守くまもと会議 阿南大吉)

牟田建設(株)(神埼郡吉野ヶ里町)

佐賀



交通事故ゼロをめざして、カーブミラー磨き

牟田建設株式会社では、令和7年より道守佐賀会議に参加させて頂いています。まだ加入して日が浅いのですが、今回は、これまで地域貢献活動(景観美化活動)として神埼建設業協会と一緒にカーブミラー磨きの清掃活動を行つていきますのでその活動内容をご紹介します。この活動は、日頃よりお世話になっている地域の皆様への感謝の気持ちを伝えるために平成22年度から年2回、春と秋の全国交通安全週間に合わせて実施しており毎回35人程度参加の下、神埼市、吉野ヶ里町管内のカーブミラー磨きを行つていきます。最近では、この活動が地域へ浸透してきたのか清掃活動中に地域の方々から感謝の言葉を掛けられるようになり、やりがいを感じながら行つていきます。これからも引き続き実施していきたいと思つています。

そして、道守佐賀会議の一員として県内で行われる清掃ボランティアへの参加や本年開催される「みちづくしinかみみね」の開催に向け微力ではございますが積極的に取り組んで行きたいと思つておりますので今後ともよろしくお願ひいたします。



いざ清掃活動に出発!安全第一で!



交通事故が減りますように

(常務取締役 福山龍二)

大分



(株)センコー企画(大分市)

つくる責任・守る誇り センコー企画の道守活動



活動に参加した社員

株式会社センコー企画は大分市丹生に本社を置く舗装工事主体とした会社です。道守活動の一環として、国道10号戸次地区(白滝橋付近)において、平成20年から年4回ゴミ拾いや除草などの環境美化活動に取り組んでおり、今年で通算17年目となります。九州を支える重要な幹線道路を、また地域生活に無くてはならないインフラを日々支えたいと思つていきます。

私たちは、地域を支える企業としての使命を胸に、環境美化の向上に取り組んでまいります。建設業は地域の皆様のご理解とご協力があつてこそ成り立つ仕事です。清掃活動は、日頃の感謝の気持ちや形にするのと同時に、社員一人ひとりが地域とのつながりを改めて実感する機会にもなつていきます。ただ道路をつくるだけでなく、気持ち良く通れる美しい道を守り続けることを大切に、これからも地域とともに歩みながら、より良い道づくりに努めてまいります。

(工事部技術部長 山中元弘)



美しい道を守る活動

道守長崎会議 長崎地区(長崎市)

長崎



長崎ランタンフェスティバルで清掃活動



清掃活動の様子



清掃活動後の集合写真

道守長崎会議では毎年各地区持ち回りで交流会を開催しており、今年度は長崎地区で2月17日に開催しました。折しも旧正月「春節」にちなんで「長崎ランタンフェスティバル」が開催されたこともあり、参加した40名の道守が、新地中華街地区と眼鏡橋周辺の2ゾーンで清掃活動を行いました。長崎ランタンフェスティバルは1987年から中華街で華僑の皆さんを中心に旧正月を祝う春節祭が行われていたものが、中華街に加えて他の商店街や市民団体に、市役所が協働する大きな祭りに発展したもので、今年で第31回の開催となり期間中約100万人を集客する長崎の冬になくはならない祭りとして定着しています。清掃活動後、市内のホテルで懇談会を開催し、長崎市長の鈴木史朗様にも御参加いただき各地区や団体からの活動報告で大いに盛り上がり、日暮れてからは約1万5千個のランタンに彩られた極彩色のまちに繰り出しました。ゴミを拾って街の美化に貢献し、そして自らも祭りを楽しむ。これこそ「持続可能な道守活動」と実感した二日でした。(長崎地区世話人 椎木恭二)



湊公園のメインオブジェ

鹿児島



田島アクション倶楽部(薩摩川内市)

みんなが安心して使える道づくり

「田島アクション倶楽部」は、平成19年6月から道守活動を継続しているボランティア団体です。毎月第1月曜日に清掃活動を行つていきます。活動場所は鹿児島県薩摩川内市内を通る国道328号沿いで、歩道や道路脇、側溝周辺を中心に「みちづくし」や草取りを実施して道路環境の保全と景観維持を目的とした清掃・環境整備に取り組んでいます。

特に夏場は雑草が伸びやすいため、通行の妨げにならないよう重点的に除草作業を行つて通行しやすい環境の維持に努めています。

活動を通して、道路を利用する方々が安心して通行できる環境づくりを目指すと同時に、地域への感謝の気持ちや形にしています。定期的な取り組みにより、参加者同士の連帯感も深まり、地域の一員としての責任を再確認する機会にもなつていきます。長年にわたる地道な活動を積み重ねることで、地域の美化意識の向上にもつなげており、今後も「田島アクション倶楽部」は、継続的な環境美化活動を通して、道路を利用するすべての方が安心して行き交える環境を支え、地域に根ざした道づくりに貢献していきたいと思つています。

(田島アクション倶楽部 中林清忠)



道守活動参加の皆さん



道守清掃活動



サステイナブルな宿根草植栽が都市の風景を変える

— イギリス・オランダ研修から福岡へ —

今回のイギリス・オランダ研修の目的は、宿根草を主体としたナチュラルスティックな植栽の最前線を学ぶことであった。この手法を世界に広めたのが、オランダ人植栽デザイナーで種苗家のPiet Oudolfである。彼のデザインは、花の色だけでなく、葉や茎、穂、そして枯れ姿までを含めた植物のライフサイクル全体を捉え、四季を通じて変化する、時間軸のある風景を創出する点に特徴がある。

イギリスでは、Hauser & Wirth Somerset (写真1)、「ロンドン」Queen Elizabeth Olympic Parkなど、Piet Oudolfが関わったガーデンを視察した。Hauser & Wirth Somersetの植栽は、多様な宿根草を基盤とした自然な群落構成が特徴である。そこにグラス類が骨格として加わる



Hauser & Wirth Somerset (写真1) 宿根草とグラスが織りなす立体的なデザイン



Museum Voorlinden (写真2) 建築と一体となったナチュラルスティックな植栽



Singer Larenの中庭 (写真3) 彫刻と宿根草が対話する空間

ことで立体的な構造が生まれ訪れる人を包み込むような没入感のある空間が形成されていた。オランダでは、ワッセナー(Museum Voorlinden (写真2))、ラーレン(Singer Laren (写真3))を訪問。建築や彫刻作品と調和しながら、季節ごとに変える宿根草の風景が展開されていた。さらに、Piet Oudolfの自邸ガーデンも訪問し、植物本来の生態や成長のプロセスを尊重しながら、自然と人の関係性を静かに問いかける空間を体感した。

印象的だったのは、これらの空間が美しく保たれている背景に、必ずガーデンナーの存在があることだ。ガーデンナーは単なる維持管理者ではなく、植物の状態を日々観察し、群落のバランスを読み取りながら手を入れる専門職である。イギリスやオランダではその専門性が尊重され、憧れの職業として社会に認識されている。人が継続して関わることで、宿根草の風景は



Tiel (写真5) 約20kmに渡るバタフライガーデン



Sheffield (写真4) 植樹帯を雨庭とし宿根草植栽した



プロフィール
中村 寛孝 (なかむら・ひろたか)
(株)中村緑地建設 代表
フラワー&ライフスタイルショップ「HOUSE」運営
宿根草ガーデンブランド「LAYER」設立
道守ふくおか会議 世話人

1 道路部の施策

新しい道路協力団体制度

CO₂

道路法の改正

道路協力団体は、道路法に基づき道路管理者(国や自治体など)と連携して、道路の維持管理や利便性向上を担う民間団体です。現在、全国では44団体が認定されており、九州では5団体が活動されています。近年、政府が推進する道路の脱炭素化において、2025年(令和7年)の道路法改正により、「道路の脱炭素化の推進」を担う重要なパートナーとして、道路協力団体は法律上に明確に位置づけられ、道路の脱炭素化に向けた収益事業を行うことができるようになりました。これを機会に是非、道路協力団体申請をご検討ください。

脱炭素化への関わり

道路協力団体は道路管理者が策定する「道路脱炭素化推進計画」に基づき、次の業務への協力が期待されています。

脱炭素化施設の設置・管理

道路空間を活用した太陽光発電設備や、シェアサイクル・電動モビリティのポート、EV充電設備などの設置・管理を担うことができます。

道路空間での収益活動

設置した施設(オーブンカフェや広告灯、脱炭素化施設など)から得られた収益を、道路の維持管理(脱炭素化活動)に還元できます。

収益活動で得た収益の活用

収益活動で得た収益を街路樹や花壇の整備・清掃など道路の維持管理を通じて脱炭素化への協力。

従来の清掃活動等に加え脱炭素化施設等の設置・管理ができるようになりました。



新たにできるようになった業務



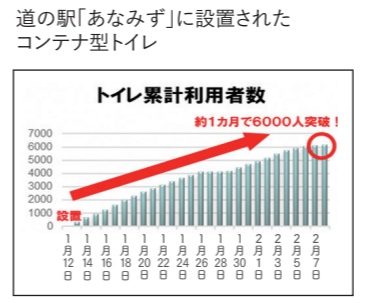
道路協力団体制度では、地域のボランティアや企業が行政と協働し、従来から行われてきた道路清掃や美化活動に加えて、太陽光パネルやシェアサイクルの設置といった脱炭素化に資する取り組みにも参加していただくことが期待されています。こうした取り組みを通じて、道路空間を活用した脱炭素化の推進が、行政だけの取り組みではなく、地域全体で支える共同の活動へと広がっていくことが見込まれます。結果として、環境負荷の低減や地域の環境意識の向上にもつながり、より持続可能な道路環境づくりが進むことが期待されています。

「道の駅」 防災拠点機能強化の取り組み

近年、日本では地震や豪雨、台風などの自然災害が激甚化・頻発化する中、国は道の駅を防災拠点として強化し、39駅を「防災道の駅」に選定しました。道の駅は平時は地域交流の場として、災害時には避難や物資集積など多様な役割を担い、広域的な支援体制の要となります。

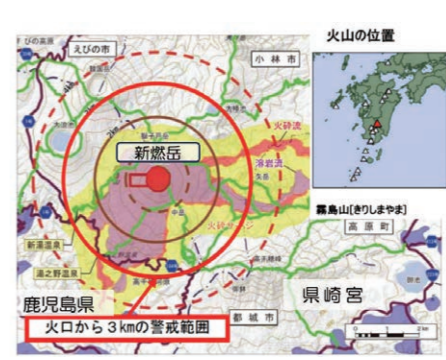
能登半島地震における道の駅の支援事例

令和6年能登半島地震では、多くの住民が長期にわたる避難生活を余儀なくされ、断水や停電、トイレ不足など生活環境の悪化が深刻な状態でした。こうした状況の中、福岡県うきは市の「道の駅うきは」では、太陽光発電及び蓄電池による電源供給機能を有する自己浄化機能を備えた、上下水道が不要なコンテナ型トイレを石川県穴水町の「道の駅あなみず」へ派遣しました。トイレは到着後約3時間で運用を開始し、1日380回以上利用され、被災地の生活環境改善に大きく貢献しました。この事例は、道の駅が地域にとどまらず広域的な防災資源として機能することを示し、全国的な道の駅のネットワークを活かした防災支援の有効性を示すものとなりました。



コンテナ型トイレの利用状況

「道の駅」都城NiQLLでの事例紹介
宮崎地方気象台は、令和7年6月22日に霧島連山・新燃岳が噴火したとの発表しました。この噴火に伴う降灰や噴石の飛散が達する可能性がある火口から約3kmが警戒範囲に設定されるなど、地域生活にさまざまな被害が想定されたため、宮崎河川国道事務所では「道の駅都城NiQLL」の駐車場に散水車(1台)と路面清掃車(2台)を待機させるなど、「道の駅」が防災拠点としての役割を担ったものです。



霧島山(新燃岳)警戒が必要な範囲
※出典:霧島山(新燃岳)の火山活動解説資料より
福岡管区気象台、鹿児島地方気象台



道の駅 都城NiQLLの駐車場への配備状況

道の駅の今後の展望

これまで紹介した事例から「防災道の駅」以外の道の駅にも一定の防災機能を持たせる必要性が認識され、業務継続計画(BCP)の策定や高付加価値コンテナの設置、AIカメラによる情報収集体制の整備などが推進されています。また、災害時に国の意思が迅速に反映できる体制強化も求められており、道の駅の防災機能を全国的に底上げする方針が示されています。しかし、都市部と中山間地域では災害リスクや支援ニーズが異なることから、画一的な整備ではなく、地域特性を踏まえた柔軟な役割分担と制度設計が重要となっています。

九州風景街道 令和7年度の活動について

九州風景街道では、「美しい景観づくり」「活力ある地域づくり」「観光振興」をめざし、地域のパートナーシップ団体(以降P.S.団体)が協働し、活動を行っています。本稿では、令和7年度の九州風景街道の主な活動についてご紹介いたします。

1 ありあけ海道とトレジャーロード

登録証交付式・活動キックオフイベント

【開催日】令和7年8月2日
【開催地】鹿島市民文化ホールSAKURAS(鹿島市納富分2643-1)

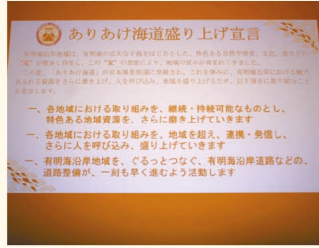
令和7年3月10日に登録された「ありあけ海道とトレジャーロード」の登録証交付式及びルート主催の活動キックオフイベント「未来へつなごう有明の宝」がありあけ海道ゆっくらと〜が鹿島市民文化ホールSAKURASで行われました。交付式では、九州風景街道推進会議の石原進会長から「ありあけ海道とトレジャーロード」代表の三原ユキ江氏へ登録証が手交されました。活動キックオフイベントでは、九州風景街道推進会議基本問題小委員会の玉川孝道委員長より基調講演が行われ、その後P.S.団体による意見発表、ありあけ海道盛り上げ宣言が行われ、大いに盛り上がりしました。今後の「ありあけ海道とトレジャーロード」の活躍に期待が高まるキックオフとなりました。



登録証の交付(石原会長・三原代表)



玉川委員長による基調講演



ありあけ海道盛り上げ宣言



みんなで佐賀サイコー!ありあけ海道サイコー!

2 令和7年度テーマ別意見交換会

テーマ別意見交換会は九州風景街道の各ルートの抱える課題などについて、テーマを設定し、課題解決へ向けた意見交換を行う取り組みです。令和7年度は、2テーマについて意見交換会を実施しました。

① 歴史街道・宿場町歩きによる地域風景の再発見

【開催日】令和7年10月10日・11日
【開催地】北九州おもてなしの「ゆっくらかいどう」

「自ら歩き、街道に刻まれた時間をたどる」黒崎宿や木屋瀬宿の面影を残す町並み、小倉城下に息づく史跡を語り部の案内で巡り、街道文化が今も市民の暮らしとつながる様子を体感しました。車座談義では、地域住民との交流機会づくり、若者に届く魅力発信、情報発信の強化、活動の継承の在り方など、各ルートに共通する課題が整理され、小さな交流や体験を通じた価値提供をつづじて地域資源を活かした活動が求められることを確認。共有しました。得られた気づきは、今後の活動の深化を確かに後押しするものとなりました。



宿場町としての歴史が刻まれた案内看板



長崎街道小倉城下町の会による史跡探索ウォーク



まちなみ案内の会による木屋瀬宿の解説



交流や体験を通じて地域資源を活かす

②九州西海岸共通の風景「夕陽サンセットロード」の3県連携

【開催日】令和7年11月11日～12日
 【開催地】あまくさ風景街道

「自分の目で見て、歩いて、海と暮らした物語に触れる」「天草を巡る視察では、崎津集落の折りの歴史やマリア像に沈む夕陽、海に寄り添う生活文化を体験しながら、地域が大切にしていた風景の背景にある思いに触れました。車座談義では、回遊性の向上やデジタル発信、若者やインバウンドに届く体験づくりなど、多彩な視点から議論が展開。風景はただ見るものではなく、歩き、感じ、語り合うことでその価値が高まる事を再確認しました。今回の発見は、3県が連携して未来の旅を形づくるうえで、確かな道しるべとなるはずで



民間ガイドによる崎津教会探索



天草夕陽八景の一つにもなっているマリア像の夕陽



昨年に続き夕陽は見られず…



共通の資源を通じてこれからも3県連携を深めていく

3 マイナビツール・ド・九州2025との連携

九州風景街道では、令和5年度よりマイナビツール・ド・九州との連携を続けており、双方のHPやSNSを通じて情報発信、コース沿線のルートによる清掃活動などを行ってきました。令和7年10月10日(金)～13日(月・祝)の間に開催された、マイナビツール・ド・九州2025では、これまでの連携に加え、各コースで九州風景街道パネル展を実施し、観戦に訪れた方々へコース周辺の九州風景街道ルートをPRいたしました。また、宮崎・大分ステージでは、日豊海岸シーニック・パイウェイによる大会前の清掃活動に加え、沿線での応援・PR活動も行われました。来年度以降も連携を継続し、九州風景街道の知名度向上と来訪者増加に向けた取り組みを進めて参ります。



日豊海岸シーニック・パイウェイによる沿道での応援・PR活動(宮崎・大分ステージ)



九州風景街道パネル展(佐世保クリテリウムステージ)

あとがき

九州風景街道20周年へ向けて

九州風景街道は、令和9年度で20周年を迎えます。九州風景街道推進会議では、20周年を迎えるに当たって、今後10年先の九州風景街道をより良いものにするための中長期計画の検討を行っています。各ルートの方々の意見や熱意を盛り込み、九州風景街道の更なる発展に資するものとなるよう検討を進めて参ります！

道守 人物伝



仲間とともに花植え活動

世代、組織の枠を超えて 元気で明るいまちづくりを目指して

前札元2丁目町内会長 西之園 実秋さん

鹿屋市札元2丁目町内会の西之園実秋さんは、鹿屋市職員時代の平成15年から鹿屋市札元商工親睦会の肥田理事とともに鹿屋市札元地区の潤いあるまちづくりに取り組まれてきました。その後、平成23年から令和7年3月末までの14年間は札元2丁目町内会長として、現在は相談役として、道守活動を通じて取り組まれています。

活動する地域は近年、新しい住民が多く住み始めている住宅地で、比較的若者の多い街です。そのため、住民同士の良好な関係を築くことに町内会長として苦心され、地域住民参加によるボランティア活動(道守活動)を通じてコミュニケーションを図ってこられました。

その活動は鹿屋バイパス沿いのバラの植栽整備に始まり、沿線の草刈り、最近では地区の遊休農地を整備し向日葵やコスモスの大輪を咲かせる活動、さらには住宅地や市道沿いのプランターによる花壇の整備と活動の範囲が広がっています。また参加者も、農機具の運転等に長けたピーパー隊、地元町内会、消防団、事業所の皆さん、子どもからお年寄りまで、幅広い年代の男女で土づくりや花植などの作業を行っています。

特筆すべきは、本活動が単なるボランティア活動にとどまらず、地域住民の交流・親睦の深まり、地域コミュニティの活性化に繋がっている点です。

今後世代、組織の枠を超えた道守活動等の取り組みで、地域の活性化を図り、人々の輪を広げていきたいと思えます。

(道守かごしま会議 丸久哲郎)



西之園さん

「緑綬褒状(社会奉仕活動功績)」を受賞

よいいコスモス街道実行委員会代表 大鶴芳明

「よいいコスモス街道実行委員会」は、国道210号浮羽バイパス沿道にコスモスの植栽を行うことを主目的としたボランティア団体で、平成13年8月に国土交通省福岡国道事務所とボランティア・サポート・プログラム協定を締結し、活動を開始しました。

これまで、除草、耕運、畝立て、種まき、採種、ごみ拾いなどの作業を継続的に行ってきた。近年では、自治協議会の協力を得ながら、幅広い世代に呼びかけ、毎年8月にコスモスの種まきを実施しています。

このような長年にわたる活動が評価され、令和7年11月3日、「緑綬褒状(社会奉仕活動功績)」を受章することができました。長年の活動がこのような形で表彰されたことは、大変光栄であり、今後も活動を継続していき、より一層精進してまいりたいと考えております。

これからも仲間と力を合わせ、秋には沿道一面に咲き誇る満開のコスモスで、市民の皆さまや観光客など多くの方々に喜んでいただけることを励みに、活動に取り組んでまいります。



うきは市長・福岡国道事務所長表敬 集合写真



コスモス種まきの活動状況

「第35回全国花のまちづくりコンクール」で優秀賞受賞

特定非営利活動法人はかた夢松原の会 副理事長 尾木幾子

共生に沿って、花のまちづくりの発展と花の社会性の向上を目的に、地域コミュニティと共に、幅広い年齢層や団体等が関わってまちづくりを実践している活動を表彰するものです。表彰式後の交流会では北海道から九州まで全国で活動をされている方たちと意見交換しましたが、殆どの団体が散水を課題に挙げておられました。

私たちは、学生やボランティア団体を中心に企業や地域住民の協力で花植え活動を実施し、花がきれいに咲くようにと毎日散水して下さっている沿道店舗や企業、マンション管理人や住民の方たちのご協力により継続できているのだと痛感させられました。今後とも「国体道路花いっぱい活動」に励み、福岡市の景観向上に寄与し、興味ある方の参加を掘り起こしたいと思います。



審査員に活動内容を説明



表彰状授与

道守ふくおか会議のメンバーで「国体道路花いっぱい活動」を実施している、特定非営利活動法人はかた夢松原の会は、福岡市緑のまちづくり協会の紹介により、初めて「第35回全国花のまちづくりコンクール」に応募しました。全国から応募総数924件、大賞が5件、優秀賞が11件、奨励賞が6件の中、優秀賞を受賞しました。

このコンクールは、1990年に開催された国際花と緑の博覧会の理念「自然と人間との

共生」を掲げ、花のまちづくりの発展と花の社会性の向上を目的に、地域コミュニティと共に、幅広い年齢層や団体等が関わってまちづくりを実践している活動を表彰するものです。表彰式後の交流会では北海道から九州まで全国で活動をされている方たちと意見交換しましたが、殆どの団体が散水を課題に挙げておられました。

私たちは、学生やボランティア団体を中心に企業や地域住民の協力で花植え活動を実施し、花がきれいに咲くようにと毎日散水して下さっている沿道店舗や企業、マンション管理人や住民の方たちのご協力により継続できているのだと痛感させられました。今後とも「国体道路花いっぱい活動」に励み、福岡市の景観向上に寄与し、興味ある方の参加を掘り起こしたいと思います。



コンクール受賞者



そらいろ幼保園児のチューリップ植え込み

活動は子どもから年配者まで

サントリー地域文化賞を受賞

けやき通り発展期成会長(ブックオカ実行委員長・ブックスキューブリック代表) 大井実

「ブックオカは2006年から書店、出版関係者などの有志が集まり開催している総合ブックフェスティバルである。毎年10月後半からの約1か月間、福岡市内の各書店をつないだ文庫本フェアやトークイベント、書店員の交流会など本にまつわる様々な催しを開催している。

そのメインイベントが毎年11月3日前後に開催している「けやき通りのきさき古本市」である。けやき通りの商店の軒先をお借りして公募で集まった一日古本店主が持ち寄った本を販売する青空古本市だ。毎年80近くの出店者が集まるが、年々人気が高まってきており、最近では公募から数日一杯になってしまふほどである。開催にあたっては、30人近くのボランティアスタッフが毎年裏方を務め支えてくれている。

20年間、コロナの



サントリー地域文化賞授賞式



のきさき古本市ブックスキューブリック前



のきさき古本市

韓国 慶州ナザレ園との出会い

道守くまもと会議 阿蘇くまもと路 阿南誠志



韓国ナザレ園ソン・ミホ園長先生

今から38年前韓国慶州で長屋みだいな家に日本人女性だけで生活している異様な光景を見ました。なぜ日本人だけがナザレ園との出会いでした。日本に帰りたいけど帰れない女性、韓国でも身寄りも無くなった日本人女性が擁護されていました。戦前戦中朝鮮人男性と日本人女性が結婚すること日本政府は奨励していました。しかし日本は敗戦、韓国人と結婚した日本人女性は主人と一緒に韓国に渡ったのでした。韓国で差別迫害など受け生きていけないほどの苦しみ悲しみに会った弱い日本人女性を私財で擁護されたのがキムヨンソン先生でした。

「慶州ナザレ園」は52年ほど前につくられました。私たち自然を愛する会は毎年年末募金や街頭募金をして38年間小さな支援を現在も続けてい



最後の入居者さんとの交流・記念撮影



納骨堂にある石碑

道守通信 編集後記

○道守通信は50号を迎えました。巻頭では発足当初から関わっていた桑野副代表世話人と塚原代表世話人にたくさんのお知らせが発信された道守通信の役割や登場人物について語っていただきました。司会玉川編集長が務めました。多くの道守さん達にとっても、思い出がよみがえることでしょう。

道守会議発足22年目を迎えて「道守」の名は多くの人たちに浸透し、「みちづくし」の進化とすばらしさ、楽しさと今後のみちづくしへの展望が描けた対談となりました。

今号では、「上」を、次号では「下」を掲載します。

○昨年、延岡市で開催された「みちづくしinのべおか2025」は、初日に現地体験と交流会、翌日は花植え体験と交流会で、たくさんの方々に参加いただきました。感想を掲載しましたが、とても前向きな意見は、これからの道守活動に参考になりました。また、商店街アーケードで実施した交流会は新たなみちづくしを提案していただき圧巻でした。

次回の佐賀は、「道の駅かみみね」が会場です。進化する「みちづくし」にワクワクします。

○今回初めて「海外花事情」が登場しました。

海外での緑化研修を実施されている株式会社村緑地建設に寄稿をお願いしました。専門的な内容ですが、外国の人たちの花に対するデザイン性と機能性、豊かさなどをわかりやすく伝えていただき、道守活動に参考になるかと思えます。

従来、「海外みち事情」は専門家の方に寄稿してもらっていましたが、これからは旅人として海外を訪れる道守さんにも「みち事情」花事情への寄稿をお願いしたいと考えています。

～道守を支援いただいている賛助会員の皆様(団体・企業)～

※順不同

一般社団法人 九州地域づくり協会	九州国道協会	(一社)プレストレストコンクリート建設業協会 九州支部
建設サービス株式会社	鹿島建設株式会社 九州支店	大成建設株式会社 九州支店
清水建設株式会社 九州支店	株式会社大林組 九州支店	西日本高速道路株式会社 九州支社
福岡北九州高速道路公社	九州電力株式会社	長崎県道路協会
福岡県道路協会	大分県道路利用者会議	熊本県道路利用者協会
宮崎県道路利用者協議会	佐賀県道路愛護協会	鹿児島県道路利用者協議会
一般社団法人 鹿児島県建設業協会	一般社団法人 長崎県建設業協会	一般社団法人 大分県建設業協会
一般社団法人 福岡県建設業協会	一般社団法人 佐賀県建設業協会	株式会社熊谷組 九州支店
日新興業株式会社	西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社	西日本高速道路メンテナンス九州株式会社
株式会社九州建設マネジメントセンター	福岡市道路利用者会議	一般社団法人 熊本県建設業協会
一般社団法人 宮崎県建設業協会	九州技術支援協議会	サンコーコンサルタント株式会社 九州支社
小田開発工業株式会社	日本振興株式会社 九州支店	アイレック技建株式会社 九州支店
旭建設株式会社	朝日テクノ株式会社	株式会社 新井組 九州支店
株式会社安部日鋼工業 九州支店	株式会社安藤・間 九州支店	株式会社アジア技術コンサルタンツ
株式会社アップス	朝日工業テクノス株式会社	朝日開発コンサルタンツ株式会社
いであ株式会社 九州支店	鳥城塗装工業株式会社(九州支店)	Fe石灰技術研究所
NTTインフラネット株式会社 九州事業部	株式会社エスケイエンジニアリング	株式会社エンジニアプランニング
株式会社エイト日本技術開発 九州支社	株式会社エスイー 九州支店	扇精光コンサルタンツ株式会社
大分瓦斯株式会社	大分県建設業協会 大分支部	大分県道路舗装協会
株式会社荻島組	株式会社オリエンタルコンサルタンツ 九州支店	株式会社岡崎組 勝盛会
鹿児島土木設計株式会社	株式会社柏木興産	株式会社片平新日本技研 福岡支店
株式会社カンドー	上内電気株式会社	川田建設株式会社 九州支店
株式会社ガイアート 九州支店	一般財団法人 橋梁調査会	九建設計株式会社
九州建設コンサルタント株式会社	九州地区道路利用者会議	九州みちの会
協同エンジニアリング株式会社	株式会社橋梁コンサルタント 西日本支社	株式会社九州開発エンジニアリング
九州環境管理株式会社	一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 九州支部	株式会社建設環境研究所 九州支社
株式会社建設技術研究所 九州支社	株式会社建設技術センター	株式会社建設技術コンサルタンツ
株式会社鴻池組 九州支店	株式会社国土開発コンサルタント	株式会社コバルト技建
コーアツ工業株式会社	株式会社駒井ハルテック 九州営業所	一般社団法人 佐賀県県土づくりコンサルタンツ協会
株式会社サタコンサルタンツ	株式会社西海建設	株式会社島田設計コンサルタント
株式会社親和コンサルタント	新成建設株式会社	株式会社新日本技術コンサルタント
昭和コンクリート工業株式会社 九州支店	JR九州コンサルタンツ株式会社	株式会社ジャストエンジニアリング
株式会社末宗組	株式会社西部技建コンサルタント	株式会社センコー企画
株式会社そよかぜ館(「道の駅大和」)	有限会社測量企画センター	株式会社総合技術コンサルタント 九州支店
瀧上工業株式会社 福岡営業所	多久市そらじの会(多久の未来を創る会)	宅島建設株式会社
谷川建設工業株式会社	株式会社高山組	株式会社玉の湯
太陽技術コンサルタント株式会社	第一生命保険株式会社 佐賀支社	大日本ダイヤコンサルタント株式会社 九州支社
大福コンサルタント株式会社	株式会社長大テック 福岡支店	中央コンサルタンツ株式会社 福岡支店
株式会社長大 福岡支社	通信土木コンサルタント株式会社 九州支店	株式会社友岡組
株式会社東豊開発コンサルタント	株式会社友岡建設	東急建設株式会社 九州支店
東洋技術株式会社	戸田建設株式会社 九州支店	利光建設工業株式会社
株式会社地域科学研究所	株式会社東亜コンサルタント	株式会社東京建設コンサルタント 九州支社
長幸建設株式会社	株式会社 中村緑地建設	南生建設株式会社
株式会社名村造船所 福岡営業所	一般社団法人 日本道路建設業協会 九州支部	株式会社西九州道路
株式会社西田技術開発コンサルタント	株式会社日建コンサルタント	西日本建技株式会社
西日本コンサルタント株式会社	西日本コントラクト株式会社	日本乾溜工業株式会社
日本工営株式会社 福岡支店	日本地研株式会社	西日本技術開発株式会社
日鉄鉱山コンサルタント株式会社 福岡支店	株式会社野村建設	葉隠会道守部会
株式会社萩原技研	パンフィックコンサルタンツ株式会社 九州本社	株式会社東九州コンサルタント
株式会社日高本店	ピーエス・コンストラクション株式会社	福地建設株式会社
復建調査設計株式会社 九州支社	株式会社福山コンサルタント	株式会社富士設計
株式会社富士ピー・エス	株式会社ぶげん街づくり会社(「道の駅」豊前おこしかけ)	株式会社丸福建設
前田建設工業株式会社 九州支店	松尾建設株式会社	松本技術コンサルタント株式会社
株式会社三原建築設計事務所	宮崎空港ビル株式会社	宮地エンジニアリング株式会社 福岡営業所
株式会社宮崎産業開発	株式会社水野建設コンサルタント	村本建設株式会社 九州支店
八千代エンジニアリング株式会社 九州支店	株式会社ヤマウ	株式会社ヤマックス
株式会社横河ブリッジ 福岡営業所	龍南建設株式会社	株式会社 日本ピーエス 九州支店
トミナゴコーポレーション株式会社	株式会社ウエスコ 九州支社	株式会社晃和コンサルタント
佐藤工業株式会社 九州支店		

個人会員59名

「道守九州会議」事務局

発行 「道守九州会議」

広報誌「道守通信」春号
令和8年5月発行

■道守支援室(九州地方整備局道路管理課内)
〒812-0013 福岡市博多区博多駅前2丁目10番7号
TEL.092-471-6331(代) FAX.092-476-3481

■(一社)九州建設技術管理協会内
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-471-0189 FAX.092-414-0767

道守HP <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/>

e-mail michi-kima@kyugikyo.or.jp

